日常の授業に生きる新聞活用の可能性を探る
～公民的分野で新聞の特性を活かした時事問題を取り上げる～

指定校１年次　飯田市立竜峡中学校　　小林 康彦

１　本校の新聞活用（ＮＩＥ）の現状

昨年度までの本校のＮＩＥの状況を見ると，新聞を授業で活用したものは多くない。写真で示したものは，２年生で扱われた「総合的な学習」の一環としての実践である。職場体験学習に向けて，関連する新聞記事を総合的な学習の時間に扱い，生徒の「職業」や「勤労」への関心を高めるのに役立てた。また，その記事を廊下に掲示し，生徒が常に読める状態とした。

また，学級通信に掲載したり，道徳や人権教育の資料として取り上げた新聞記事はいくつかある。（信濃毎日新聞だと「あした育む」「コンパス」などのコラム等）正否の判断が分かれるような内容の記事を授業で扱うと，生徒は様々な立場から自分の考えを述べることができた。

２　実践のねらい（育てたい力）

（１）新聞を手掛かりに，生徒が世の中の出来事を見つめ，自ら問題や課題を持って対応する力（思考力，判断力，表現力）を育てていきたい。

（２）新聞記事を活用することで，読解力の向上を図る。読解力とは単に読み解く力ではなく，「情報を読み取って，自ら考えて判断し，発信する総合的な能力」ととらえており，将来現れる課題に対応できるよう，育んでおきたい力である。

（３）新聞には「社会の今」が載っているため，教科書で扱われている内容を補足する教材として新鮮で効果がある。それを授業に活用することで，生徒が最新の情報に触れながら，社会的事象への理解を深めたい。　（参考文献：信毎ＮＩＥガイドブック「新聞で学びを拓く」2012.4）

３　研究の概要

・上記２の実践のねらいを受け，研究対象学級の授業で実践し，生徒の考えをまとめたものが，次ページに示した　（１）ＮＩＥの具体　である。

・これらはいずれも信濃毎日新聞社からメール送信される「学習シート」を用いたものであり，記事の具体的な内容読み取りの設問に加え，最後に「記事から**自分は**どう考えるのか」という問いが設定されている。

・単元の学習の中に，次ページで紹介するような時事問題を含めつつ，生徒自身が思いや考えを具体的に書き，それらを発表していく中で，生徒の傾向性が少しずつ見えてきた。

（１）今年度授業学級で実践したＮＩＥの具体　～「信毎学習シート」の活用から～

〇地球温暖化について考えよう　　～温暖化防止に向けて，**私たちが**注意したらよいこと～
・電気を使わないよう電気代を値上げする。そうすればお金がかかるので，無駄にしなくなる。
・移動手段としての車の利用を減らす。歩けるところにはできるだけ歩いて行く習慣付け。
・ゴミを減らす。ゴミを減らせば焼却処分する手間も減り，ＣＯ2の排出減につながる。
・火力発電を減らし，自然エネルギーの発電に切り替えていく。電気代は上がっても仕方ない。
・森林伐採をしない。様々な木の使用を減らしていく。切ってしまった分は植林する。

〇スマホで遊ぶ幼児たち　　～**あなたは**２歳児がスマホを毎日使うことをどう考えるか～
・よくない。２歳児なら学習アプリなんか使わなくても，親が直接勉強を教えてあげればいい。その方がコミュニケーションもとれる。絵本の読み聞かせとか，それが普通だと思う。
・よくない。２歳児は絵本やおもちゃで十分。表現力は他の人を見ながら自分で身に付けていくもので，アプリで育つものではないと思う。
・年齢に合っているものがあるはず。２歳でスマホ，はそれにあたらないような気がする。

〇消費税率アップ　～消費税率の引き上げによる負担増に備えて，**自分が**今からできること～
・大きな買い物（家，クルマなど）を計画しているなら，上がる前に買えるよう計画を立てる。
・出費が多くなると言われているので，無駄遣いをしないような生活を心掛けていく。
・保存期間の長いものやずっととっておけるものを，たくさん買い込んでおく。
・ものを大切に扱う習慣をつけ，すぐに新しいものを買わない。・買いだめをしておく。

〇消費者の安全と表現の自由　～**あなたが**店長なら客の安全と表現の自由，どちらをとるか～
・撤去する。もし何かあったら，「なぜそのままにしたのだ？」という責任が問われると思う。
・撤去する。記事の中にもあったとおり，お客の安全が一番大事だと思うから。
・撤去はしない。表現の自由も大切だが，撤去したら売り上げの減少が大きいように思う。
・判断に迷う。お客の安全面は大事なことだが，犯人は卑怯だと思うので，言うとおりにするのも気が乗らない。周りの店と同じような対応をするかも…

（２）見えてきた生徒の傾向性

〇学習シートを活用した実践から，以下のような生徒の傾向性が見えてきた。

・自分が判断に迷うような課題に対しても，自分なりの考え方や価値観で，考えていこうとする意欲がある。
・世の中で話題になっている社会的事象であっても，自分に直接降りかかってくるような問題でないと，自分の考えも絵空事になってしまいがちである。
・自分が関心のあることがら，自分に関わりが深い問題であれば，前向きに・意欲的に考えようとする姿勢が強くうかがえる。

⇩

◎このような生徒の傾向性に対して，公開授業では“男の育児休業取得”について扱った

（３）男の育児休業取得を扱う意義（教材化の視点）

自分にとって切実感のあることがらを取り上げる…　男の育休取得は，将来結婚し子どもができたとき，男女双方が考えなくてはいけない問題である。

⇨

「切実感がある」とは…
今の自分の問題として，解決を差し迫られている。または将来的に見て，自分に関わってくる可能性が高い。

⇩

切実感がないと，考えさせても絵空事になってしまう…
なかなか自分の問題として考えることができない

⇩

教科書に「労働をめぐる問題」という単元があり，そこに女性の雇用問題，育児・介護休業法の施行，育児と仕事の両立等の記述がある。この単元で男の育児休業取得の是非について扱えば，特別な意識を持たずに「普段の授業の中での新聞活用」が自然にできるのではないか，と考えた。また，派遣やセクハラといった生徒に馴染みの深い問題も教科書には記載されており，将来的に自分たちにも関わってくる問題の１つとして，男の育休取得を考えられるのではないか，と判断した。

（４）公開授業での実施単元に関わって

今までの社会科の授業の中で，授業学級では様々な観点から世の中をとらえ，自分で考え，判断することに取り組んできた【３の（１）の実践参照】。これは，2012 年度から完全実施された学習指導要領改定の狙いの１つに,読解力の向上があげられていることとも関わりが深い。読解力とは単に「読み説く力」ではなく,「情報を読みとって，自ら考えて判断し，発信する総合的な能力」であり，この力を伸長させていくには，新聞は最適な教材になり得ると考えたからである。新聞は，事実が写真や図版，地図などを使ってわかりやすく発信され，多くの人が記事の作成に携わる故にその正確性が高い。そのため，現在の世の中の様子を学習していく公民の授業では，情報資料として新聞の利用価値は高い，と考えている。そしてそういう状況の中で生徒は，報道されている社会的事象については，多面的なとらえができることや様々な考え方ができるということを，体験的に学んできている。

今回の単元で扱う内容は，男の育児休暇取得に関わる問題である。“イクメン”という言葉が流行語大賞の候補になったのは３年前であるが,では育児に積極的に関わる男が増えているか,男が育児休業を充分取得しているかというと，残念ながらそういう姿には程遠い実態がある。そこで，まず男の育児休業取得について，生徒に現状を把握させた後，自分だったらどうするか（男）・どうしてほしいか（女）を書かせ，保護者の考えも聞いてくるようにする。次にいくつかの新聞記事から，なぜ男が育児休業をとらないのか・とれないのかについて読み取り，それらの理由を確認し検証する中で，男の育児休業取得率をあげるにはどうすべきなのか，現在のような状況の中で，自分だったら育児休業をとるか（男）・とってもらうか（女）について，自分の問題として考える機会としたい。

資料とする新聞記事は，取材の中で出会った人にインタビューした内容が具体的に記述され

ており，絵空事ではない，実際の人間の生き様や思いに触れているため，生徒も将来的な自分の姿を重ねやすいのではないかと思われる。また，男の育児休業取得率が上がらない実態について，上司の無理解，周囲の育休や育児に対する偏見，所得補償の少なさなど，様々な観点が記述されているため，生徒も今の状況をとらえやすく，自分が考えていくための観点を多く持てるのではないか，と思われる。また，結婚して子どもを育てることは，生徒にとっては自分が該当者になる可能性が極めて高い事象であるため,「自分だったらこうする，こうしてほしい…」という切実感のある自分の問題として，とらえやすい内容ではないかと思われる。

新聞記事を読み深めることで，現在起きている男の育休取得率の問題に対して理解を深め，さらにその問題について思いを巡らせたり友達の様々な考えを聞いたりする中で，より自分の考えを深化させていってくれることを願って，この単元で公開授業を仕組むこととした。

（５）単元展開の概要

学習問題・学習活動	指導・評価	時間	資料
・“イクメン”について知る ・男が育児休業を取ることについて，自分の考えを記入する ・育児休業法，所得補償などの用語の意味を学習する	・イクメンについての自分の思いや考えを，学習カードの書かせる ・次時に考えていく上で，基礎となることがらをおさえる ・保護者の考えも確認させる	1	・学習カード
・前時に書いた考えを発表し，男の育休取得率が低い原因を新聞から読みとる ・男の育休取得率を上げるための手立てを新聞から読みとり，自分の考えを記入し発表する	・自分や保護者の考えを発表し，男の取得率が低い理由を新聞資料からとらえる ・男の育休取得率を上げるためにはどうしたらいいか，自分としての手立てを考え，発表させる	1 本時	・新聞資料 ・学習カード
・働く上では男女の性差をなくしていこうとする動きや法律について知る ・仕事をするにあたり，今後自分がとるべき態度について考える	・労働環境に関する法整備が進んできていることを理解させる ・今までの学習を踏まえ，自分として仕事についてどう考えていくべきか，今後自分の取るべき方向を書かせる	1	・労働環境の整備に関する法律 ・学習カード

（６）公開授業で目指す生徒の姿（主眼）

育児休業取得について期間や立場，期間中の所得補償などについて学んだ生徒が,「男が育休を取得する」ということについて自分の考えや家の人の考えを発表したり，男の育休取得率が低い理由やそれに向けた対策を新聞記事から読み取ったりすることをとおして，男の育休取得率が政府の掲げている数値目標に達するには具体的にどうしたらいいのか，自分の考えを表現することができる。

（７）公開授業記録　【平成２５年１１月８日（金）　実施】

教師の発問・支援等	生徒の反応
1　自分は将来，育休をとるかどうか，前の時間に書いた自分の考えを出してもらいます。まず男子から。	Yo：僕はとらない。稼ぎがほしいから。仕事をしながら手伝いたいと思います。なるべく早く帰るようにしたい。 T：僕もとらない。働いた方がお金が入る。昼間は妻が中心にやり，夜に手伝えればいい。 Yu：僕はとりたい。多くの時間子どもと接したいから。
・女子はどうかな。	F：私はとる。１年間は集中して子育てをしたい。 Yu：私もとる。１歳位までは仕事を休んでもしっかり面倒を見たい。 M：私もとる。子どもの成長を見守りたい。あと，自分が小さいときは母親にくっついていた。自分の子もそうやって安心させてあげたい。
・男子はとるという人が４分の１だけど，女子は全員がとると書いてます。	
・じゃあ，家の人の考えはどうなんだろう。自分の息子が・娘の夫が育休をとると言ったらどう感じるのかな.	Ma：大賛成。小さいときに父親が子育てに関わることは大切だから。ダイナミックな遊びもできる。 R：夫の給料が少なければ夫が主夫。私が少なければ私が主婦。給料の額によって違ってくるのでは。 S：男は外で働き女が家を守る，というのが基本。だから男は育休をとらない方がいい。 E：男は仕事に専念する方がいいので，とらない方がいい。
2　男の育休取得については，出してもらったようにいろいろな考え方があるけど，実際育休をとっている男は 1.9％しかいない。どうしてそんなに低いのか，その理由を新聞記事から読み取ってみよう。（資料，学習カード配布）	K：職場の雰囲気が取りづらい雰囲気。 R：上司や同僚の理解が得られない。 E：（会社の）人員に余裕がなく，全体として取りづらい。 Ya：上司と部下で「子育て」に対するギャップがある。 Yu：上司は「育休は女の制度だ」と考えている。 Yo：育休中に収入が減るのが不安。 R：仕事現場を離れてしまう怖さがある。 Yu：東日本大震災もあり，その影響で「この時期に育休？」という気持ちも今はある

３　国は，男の育休取得率を４年後に１０％，７年後には１３％上げる目標を掲げています。それを達成するためにはどんなことが必要なのか，新聞記事から読み取ってみよう。	S：育児休業給付金の拡大。両親で育休を取れば，母のみが取ったときより給付金が高くなる E：もらえる額の増額。前賃金の５０％から６７％へ。 R：パパクォータ制の導入。（父親だけが育休をとれる期間を設定する）⇒この制度は，北ヨーロッパで導入されている。 A：学校教育で，両親で子育てをするよさを教えていく。 M：残業を伴う長時間労働を見直していく。
４　じゃあ，前の時間に考えてもらったことも含めて，いろいろな新聞記事から育休について読み取ってみて，君たち自身はどうすれば男の育休取得率が上がると思いますか。	Ma：「育児は女性がするもの」という意識を変える。会社にもそういうかたちでの理解を求める。育児のやり方などを教える講座をたくさん設ける（離乳食，おむつ替え，あやし方　など） S：育休期間中の給付金の引き上げは必要だと思った。これが基本ではないかと思う。あと，Mさんの言ったとおり，育休に対する会社での理解も必要だと思う。 R：今の２人と似ているが，給付金の増額，仕事への配慮の両方がどうしても必要。仕事で重要な役になっている人がいて，その人一人だけやめる（育休に入る）ことができない人がいると思うので，そういう人たちへの対策が必要だと思う。 A：安心して休みを取れること，育児ができることが何より大切だと思うから，それには経済的支援をさらに強化していくことが必要なのではないかと思う。 M：新聞にもあったように，まずは性別による役割意識をなくしていくこと（特に自分たちより上の世代の）と同時に，様々な面での男女差別をなくしていく努力が必要だと思う。

４　研究のまとめ（研究会でのご示唆から）

・新聞の読み取りはよくできており，教師の意図することは出てきていた。また，ラインマーカーを使って必要な箇所にチェックしていたことは，読み取り方の基礎が身に付いていると感じた。

・今回のような時事ネタは，社会科の公民的分野での活用はとても有効である。特に，最近の記事で授業を構成したことは，教材として“旬”であり，貴重である。

・最初に自分が考えたことをもとに記事を読み取り，生徒がよくまとめていた授業だった。考えを出すときに，記事に触れ，事象に対する見方や考え方を広げていくことが大切である。

・育児という問題は確かに多くの生徒が直面する問題には違いないが，自分のこととしてとら

えることはやや難しかった。しかし，記事の中には具体的な“人”や“声”が出てきているので，そこから思いを読み取ることはできたのではないか。

・最初の設問で，男子に「自分は育休を取るか取らないか」と聞いたのであれば，女子には自分のことではなく,「夫に育休を取ってほしいかほしくないか」の観点で聞いた方がよかった。

・自分の考えを構築するには至っていなかった。（読み取りで精いっぱい）それは無理からぬところなので，次時に新たな方向性を投げかけた上での，彼らの考えを聞きい。

・考えられる対策は読み取っていたが，自分の考えを書くまでには至っていなかった。常に最初の発問に戻り,「自分はどう考えるのか」を再確認していくことが大切。そうすれば自分の考えの根拠も自然と出てくるようになる。

アドバイザーから

〇敢えて新聞活用の単元を仕組むのではなく，普段の授業の中で取り上げる・活用する，というスタンスでやってほしい。

〇内容についても，どうしても学習する必要があることがらの中で，新聞を活用していくことが大切。従来の視点ではなく，新しい視点を生徒が獲得することを新聞が（で）サポートする，という方向を大切にしてほしい。

〇新聞は素材であり，それを教材化していくことが重要。今回の授業では，読み取るべきところに線を引いていたが，ああいうことが普通にできることを大切に考えたい。

〇人生はあらゆるところで選択を迫られる。新聞を活用していくことも，広い意味ではそれにつながってくると思われる。

５　残された課題と２年次研究に向けて

・１２月に行われた今年度のまとめ報告会の折り,「全校体制での研究の必要性」が多くの学校で出されていた。ＮＩＥ＝国語，社会，総合…　となりがちであるが，多くの分野でのＮＩＥの実践をまとめていくことも大切である。

・本校での授業研究会の折り，アドバイザーからも出されていたが「普段（日常）の授業でどれくらい活用できるのか」が大切であるように感じる。「新聞を使って何かやらないと…」ではなく,「この単元（領域，主題など）で，この記事は使えそうだ」「新聞を読んでいたらこういう記事があったので，こういう意図で・こういう場面で使ってみた。結果，こうだった」ということの積み重ねのようにも感じる。

・日頃の実践を提出してもらう，分担を決め使えそうな記事をピックアップする，など，本校としてできるであろうＮＩＥでよいと思われる。(「こうしなければいけない！」という縛りは，推進協議会の方からはないので)

・研究授業を領域で実施するにしても教科で実施するにしても，学習の根幹の部分（該当箇所に線を引くなど資料を効果的に読み取ること，自分の考えを学習カードにきちんと記入できること，指名されたら返事をして大きな声で発表すること　など）は，普段の授業で培っておかなくてはいけない部分であろうと思われる。